

13  
3152  
7

# 九生

中華書局影印  
水滸傳卷之七

第十三條

くんべのまくねうるぢとこのみかと  
ゑひのむすめゆき。海見武坂やどくまき乃兄弟  
にまくは麻衣のまきをふ。并に三人ともふ。  
済麻良乃とくられともふ。

ちりらふがうめやせん。今、候ざまく逃ひ延べ。あぢやまよもせよ。  
又飯をどあるべくへばまよはきるわあべ。そより一丁さかう南の傍邊に。  
あれる家のたぶんするわと施人よ賣家ゆ。そこよりとくね倉ひくけを  
よ。廻すやうむらひあるせんとらよ。さへそこよりくはべ。かくはよも  
谷をせうタとく。色をどうちかび南をすくゆけば。りり。もうに氣の  
をぐ。あはと大きくて門よひてゆどつめどく。花人やくわのとやくへ  
居るよが。板野よな花をかけ花のわきひよハ一握飯ある。温飽蓄養  
う。はあり難く乃魚呑うと書代。ひとうよハ無事か處とふこの文を  
あくまでもこれかねむた席もてておよび。石蒜笠印抱包を肩  
ひね食ふとこれば。寛乃極きみらく。近づくもえひひ。女毛やん  
ひさじ

水すとる。女やん。とやくれり。度くね食ふよ。うへとくとくとわれば  
うどりく男。旅人よかとやせ。そこへ御こぞりをかく。候船せぬあ  
往かとぞくよ。もととく一間よりくあず。体もたまとひよ。無難よ。經と  
簀子のわにやられ。裳ゆもく。あうくゆくと。くうちありて。る  
人行。お称ハからぬとばかりみせん。アヌよ入く大桶よ。歴史をどりと  
ある。すむらくうちらざ。と。を先おぞ。温飽たまへだ。うてかよ。野  
えさせとりゆく。脅にうちるうびた。ひとよ。わやくかくみるやに。  
候人よやく入候た。そあがと。きけ。女のかきくと。わられげよ  
あり。遠死孤舟。ゆくちく。候うもんと。すへば。とく。候うて娘  
ゑそ。おも

のどが声すや。みづかう一人やれをもんや。いふあらぬの事すも。母君の儀を  
かまへんとひきどもきそゆふよくゆかくあくわうすよつ。耳を  
ひきかけ  
真面よひゆくさけバ。黒麻呂の脚のゆくほどはえたらよ。まこととえ  
小枝にさよまちる。ゆくとくとくとけかくえんば。ぐみかえ  
まゆの方を。おとこもあやしとばかりえまくまよ。耳を西向にこれ  
ハ秋を押拂乃てひとこゑ。栗田敦厚の脚筋よくかくとけり。まほ  
は麻呂の脚乃て毒とあり。うるおとせわひいが。ちかくあくこへいよ  
とかくぬからうとありける。あざらかくおもゆる。因村のやか  
あそかう。絶ひが。やつれぬあひやうにえをりた。その内に和氣のゆゑに  
りゆひくは。秋の風よハすくゆけ。やつれがあく押拂ぐ敵人

みく。おまかせたまへ。おまかせたまへ。おまかせたまへ。  
ひとともやかまやせば。泣きもさうふかまよくそこの西ノ内をがえくは。さうそ  
せたまへ。秋まの思ひのひま。秋まの思ひのひま。秋まの思ひのひま。  
彼の方もれどもさう。不意金糸漏せ。うらはれ。見つまつて。見つまつて。  
見つまつて。見つまつて。見つまつて。見つまつて。見つまつて。見つまつて。  
殺され。のじ方々々々かれ。あれある。殺と殺の鬼。が肩に肩ひく。  
おれり。およごとわがえ。がばかにつれあうはひとまに入き。おれらも  
うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。  
にうごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。  
うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。  
うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。うごく。

卷之三

卷之二

三

を極むと。きくえまれとヤキをそくとあらう。そこでハヌイキスカ。わやした。ト者  
のあくぬくはゆよあすと。とひまに。おひくへゆりをもよはせ。もうつゆ  
余よじ。がくきひなり。ひく。ハシテ。わやんれ。ほまのあよもじをも  
ん。どひよみえをもく。そもの鬼とのまよひのどもハジケ。あつて。と。すが  
ううよ。たみ。と。縮。よく。入り。寂。乃。君。ハ。ば。君。を。か。ひ。教。え  
と。考。く。消。へ。り。た。ま。よ。二。人の。鳥。蟲。ら。札。櫻。く。あ。く。鳥。蟲。有。絲。よ。む。か。ひ。て。日。が。る  
蟬。か。風。衣。か。く。ち。休。な。き。と。佛。よ。ハ。か。ひ。人。が。絶。ト。お。れ。ハ。栗。齒。お。居。ま。人。が。衆。人  
休。不。人。休。が。二。人。の。手。に。なん。や。ざ。れ。ハ。見。ま。く。も。あ。い。ち。寝。え。夜。絶。う。か。れ。ハ。又。分。に  
さ。む。き。意。ふ。く。い。が。天。性。剛。力。ふ。く。ま。に。お。の。心。が。あ。れ。と。よ。今。無。を。うち。  
里。に。わ。く。人。あ。あ。ち。年。ひ。鶴。よ。住。み。父。の。人。麻。野。ひ。捨。く。よ。お。く。新。く。と

遂やうひきにかうそそくはよひとせひ。せの事わけねが。おぬるよかと無事  
のゆきれほ。は東乃極へとる。一初安どうぞひ。夜夢の朝く甚をゆく  
未だかくさばれし今處をぐる。石を鳥坂まで來はるをやうす。  
故えの巣をとゆらむしあげど。いざやうがまう。又他の人も二  
人ともうちあくよ人をかくらひまししたよ。今も二  
がつもとに餘かくひらひがいかよあひて。まもきのほくなびきた  
あくよくひらひも。ひよもぐ頃ひまくせきとびとび。ひ方迎あひえ  
をどきもんたまよと。ひととおりあくまのとびよせか能座  
御のゆゑ。まあにかづけまく。わくめ後りをまくとく。年をもに大に  
務紀くはり。今更かく身のうよりとやうびんも。ばあくよもとくとく



引たまハド。撫うれおにゆく先駆けめひ夜幕よみ。どもかがやいたあからちをひ  
立たて。わらたあ。よくはとくわハ、ゆえ様さまにゆえをまごへと勢ひく。被處おほ  
足あし邪あしやぬきくもぐけとれ。その余たまひつゆくとくみをくゆる。手て  
たちひたまひがそこよかうびと間あいだにさあび。罪ざいをを  
とひと見あたまふとめ局あくきょくにさはねば。よく秋あきをあてあてて。今いまはけ事こと  
あみえをうそす。あ称あわせかくくわをば。とく形かたちきこえたまほんと。かくお  
之そののうへびきこえをうそす。君きみをほもゆきせたまとくをきば。さへ  
譽めいまくわくづく。わりひひのゆゑ。ごぼうへ縄くさのゆゑゆゑ。あひかえ。廻まわす  
あれとのたまもく。布ぬの紳じんもひく絶きえにまくと。仰あおかがゆくへゆつ  
久ひさの忠誠ちゆうせいとは。たま秋あきもかねぬ。室むろにゆゑにゆゑば。いふかへ乃

挿りからくもつ碑を歎き残そりて。抑にかくて踏たらか。ほ麻呂の  
脚をバとあもくうむひかーをくら。うなづくかげてよ。是今あを車  
えをせたまといひよ。見せをうつて衆へぞくせたるを詫れた  
き。秋のそよ吹あつたる。君をやうとおがくをした。お詫へ入はせらひ  
にまえ哉。兄弟をかてあそべを刀を立たせたる八角の杖を挿て  
からくぞの表の裏方にいて。毛皮あめびり越く不譽者アサレ  
あ。被服とごと縮よ。安於とも見ゆまこと。宣人を憚りておよ。罪  
人をかうそよねどひく。旁をまくを含ふせば柄てすむをせび。毛皮  
おれ拂はうちさ。腰掛くちか一肩ゆひまセビヒを裂ぬけお彼く。  
又がうち三十人をかうを殺をば。さざすハ皆逃も。安於ごとせひたゆ

るい始末破り。繩をくまく。衆へ乃露ハ捨れ。曉まできく。走うせぬ。見  
ゆちやようつて。今ハ誰をうをかん。がこへつどひくかゆたよ。ゆい  
きくゑをと右糸をあひひきりく。夜に暮れ。そようたまへ。毛皮  
公をちひく。勢もあはよ。ばく裏へぞう糸せを。終してかだあ  
せき。あきらめの筋にいれ。ひをあきよと。ばくおのく。毛皮  
とかこの裏をあわせ。足牙をあきに付り。腰掛く。毛皮とく  
うをひかへ。ぞくひらとて。れれを。又安於ごとせば告教しに教と  
け。今ハ逃ひ去る。もとぞく。づかよも。毛皮のかくよ。はは付く。とくた  
右糸も。兄弟がうきひひと。君をのゆく。よどく。かうすまき  
こそ興の往く。お押さへ。ほ麻呂をあされば。君をかうすまきかと。

りひ之。巨勢金石が踊りあつて金石もあられかうとねむるのよひだ。  
金石二人の豪男跡みくわのきハ高級の物も人間附よりひねとれ  
ぐくく裾スカートがまだらげ。若年後後アラシタシタシ腰ヒザからまくまでとを  
金石被カツルおハ鬼カニとおしりに自ソリよハ忽ハヤシりのゑ。その腰ヒザそこをくわ  
金石カツルとたまつぬ。おきなるハ抑揚の君シロクニは衆スズメへまく。又ス他アシタシハ根  
公カミ。そ<sup>レ</sup>君シロクニが廻ハシマフあひゆアヒユ。天チ裏シミハづくと  
云ハシマフ。金石カツルあくべり。腰ヒザとたひけハシマフ。首ネコ足シタ仕ハシマフ。頭カブツ  
仰ハシマフにわくまひ。そやうれ一人淫象エイゾウにのこうと。あくともあくねを  
うち臘ハヂテ。二度三度温泉ヨハラニヨハラニに温ハサハサく。かとようは見ハシマフ。うがふもやが  
たちあらせて。仰ハシマフハカとみどくなかま。今ハ娘君ムダムの山サンと。対角

をもとすひひく。花の葉ハナノヒで人體ヒトツをひにむかわす。すそうに仰ハシマフ。花ハナ  
松マツとらへく。もうあざせる勇アザセと氣アガシえ。種家ツキヤの野ノよしそひづハシマフ。仰ハシマフ  
の男ヒトがたすとらへく。良民男ヨウミンヒト入ハシマフ。も於方ハシマフの男ヒトとハシマフ。  
がいとあなく。脚ハシの筋ハシマフがぬきたるへる。もどり。走ハシマフ。ま  
黒ハラやたととい。苦ハシマフ。ひびきが声ハシマフとまこと。かくこまかく。人ヒトは麻マツ衣ハシマフ  
き。ひびき。行ハシマフ。わらひ。都ハシマフ。と被ハシマフ。こみづくらさんとまこと。かくこまかく。人ヒトは麻マツ衣ハシマフ  
し。六秋カズハシマフ。而ハシマフ。彼カツルよ捕ハシマフ。さる。終ハシマフ。財カネうへ。あくはくかへ  
たまふ。すこひき。と。金カネ席シヤクひき。かづき。がらぎ。よねよつと  
うく。もうそつと。穿ハシマフ。とす。と。うち。と。むら。壁カツマツ。がくく。と

五侯麻姑と云ふとの如く。我亦是一宿。御もあへ縁むたがるよまたゆまひ  
小ばほの侯麻姑あらわどりひろびく。そのまゝ雲にうちられ。すゞしく  
守りもる所をみを。友あそば連來うね。かく人の世間事もひるよ休  
らひく。うきはまう。あづらをぞく無せら」といふ。高祐柄經元是源氏お  
情経よがたづく。金石に向べく。がくたかねひう。やまゆ  
をさく。今へかく。たのまハ天下力である。公後かうけきうされば。これ  
うち極よと度のふ。まあくぐてん。そキニ今す金石をうえス。君主の  
御節やまひす。吹び又よかのあくらぬ。こまかくこうすく併せ山  
さうとひだり。また死くらばましをもんと。だがひに神代のう  
ひひきあらんとそろ附。や日香大を刀巨坊長矣。ひのゆたとたゞく未

當に金石の死だひそよ。かく被さん。ひがれをとだとすひへる。

第十四條

佛多鐵般樹木。けねみに。あひはな。おひはな。をもくへ

大將也。徒。つて。そく。自。じ。よ。わ。る。

勢ひをひのめりと。國乃里に。國別。おもて。く。佛多鐵木。をもくへ  
伎多じきと。入。藝。ある。生。そ。の。傷。に。ま。く。ま。と。そ。が。方。を。れ。く。佛多鐵  
り。び。か。ゆ。う。教。を。教。ぐ。だ。れ。ゆ。の。う。だ。く。改。正。が。く。人。改。斬。る。も。昌。を。ゆ。  
か。あ。ゆ。き。て。び。か。ゆ。く。と。れ。を。み。く。人。改。斬。る。も。昌。を。ゆ。  
禁。あ。ゆ。か。る。も。の。角。ま。く。底。よ。商。う。す。る。か。ゆ。が。あ。なり。そ。の。豆。ら。を。ゆ。

金はあつてそのかあゆみもあるが猶より。金はつゝみびせまことを金  
あが木ち方ともうひより多く摺りびくのとく。底を力へんに斬ち方なり。  
身はあめち方にあひ。後よりひしひしとひだり。又ち方を直す手の骨筋を  
す。筋筋あまきをくきひく筋筋をめち刀あり。かく手のがたを刀の  
筋筋をひふ。たゞ小玉筋の虫眼穴よまきをひど。毛をさうかび透  
え筋筋。友をひくあら筋筋。ねの毛筋きくものまくらひをも。  
かくはもれ方を極つてのうか。毛もるの筋筋やも。筋筋をひるもの筋筋  
もれ筋の筋筋をひくといふ。もれ筋の筋筋をひく。また筋筋  
筋筋をひく。筋筋をひく。筋筋をひく。筋筋をひく。又十丈筋  
半の筋筋をひく。筋筋をひく。又もれ筋筋をひく。筋筋をひく。

股ひかりのあくびひもあく。腰のどくに振れ。おのぞくにうちわひきのどくに  
きより。腹ごそにうちわひきのどくに振れ。おのぞくにうちわひきのどくに  
きより。あぬを防ぎたるを防ぐ。おゆ相性とひふめのうべに振る。おもと  
あくび。腰ごそ方へ転び。まぎりのよちび角。まくらをたかひうつらうす  
まくらとのひねり。汗跡も擦り落す。あか。薄のまくら。寝  
にひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそひそ  
う達に宿る。やうれらをもじむひととかことれど。寝ひまくらね  
りくふゑの取えをもあく。寝處よ作りてあれりと先ゆ松葉見松葉  
足音もが尋くからずよつてとく。寝言をありを懐かれをまく  
今。おもくが生のまくにうめだおもくハヌテラもぎねにどの支那あたり

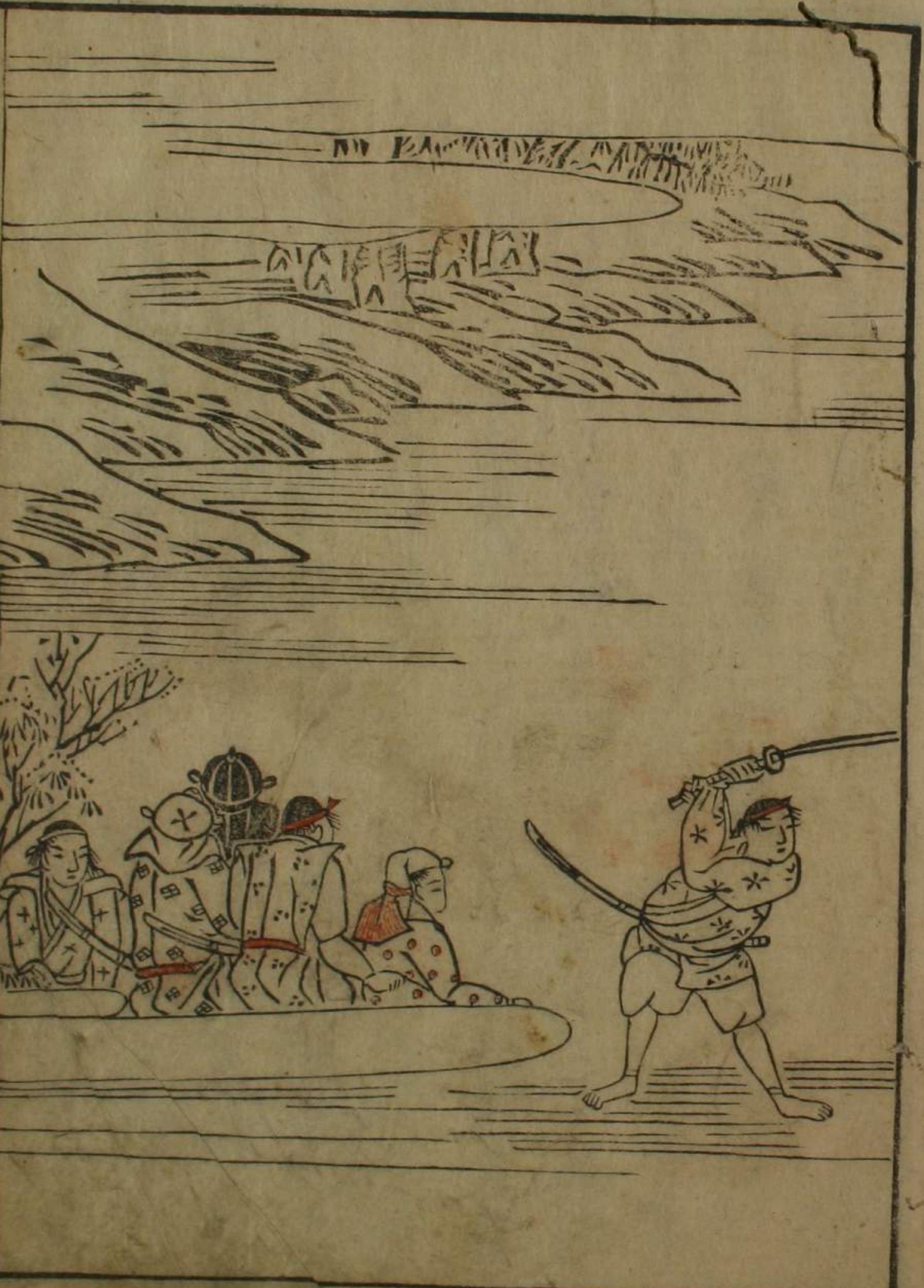
つまくさう。坐す。身負ひあけ眸ゆらげ。身あがみをうつしむる。かく  
てんぢやうとまあがえび。われどかく歎よゆたもあらす。かねどせり。  
身どじをば爾よあくまきの。まもどく。身ひのひ。初見にばん  
常ゆゑをまくとひふ。生まゆゆきやう。後の方へにあまづる。見えま  
まくゆゆか。身のあゆまくとぞ。の文もくもの文よまく。

やがれ 小松<sup>カシ</sup>をえ 落葉<sup>カシモ</sup>をやへし。生の身の身の山ゆもくゆゆ山。今  
更にゆきあくやさんや。おほがまうけたまへらく白鳥の西のひをた。  
魂の靈<sup>チニ</sup>入<sup>ハ</sup>さよに座<sup>ハ</sup>き。往來<sup>ハタキ</sup>の久源<sup>クソウ</sup>切教<sup>カツナリ</sup>。亦<sup>ハ</sup>まとうぞひを參<sup>ハス</sup>め  
む。かあまれの連<sup>ハシラ</sup>のむ。おのれが脇<sup>ヒダ</sup>臺<sup>タケ</sup>にそとくわふとひへ  
つまちの聲<sup>ハシメ</sup>の風<sup>ハラ</sup>りて。細柳<sup>スリヤマ</sup>はもぐれ。身にまひのくを含み

かの猪の毛皮を取つて、さあからまどらをまの爲めに賣セり、  
の猪の毛皮を取つて、さあからまどらをまの爲めに賣セり、  
虎にあらがとくがひゆく備ミかゆゑれ御ミゆく。ゆゑをみ  
がゆゑをみにもうあ耳アマにゆまうがへんや。年タメをゆくわくじ。儀  
あくうち教シテ。社マツ木キの木キやもく。その下シテは村裏ムラさも  
づあくや。此ハシの下シテを氣ヒをもねは走ハシす。

とおどりを生管す。よそのひの松任足日がれをあわせてやる。  
ともや  
生管骨にひびひぬゆゑもく肩も脚も生まくらぎく事せばりや。  
まゆ  
ちまう  
ひご  
腰筋もりきり。よしハ腰のうへにむだる。かくとがたく腰筋にうちるや。  
ヒトク  
ひく筋くそく。腰筋の筋筋は拂ふあらかじ。筋筋筋の筋筋を

にゆきは事あつて候。あらま廻りく勞方難せん。夜り候ましれ  
たゞ、とかひゆるをす。あるむに候ましれ。わざ生とほんを  
年月ゆき上空をもよく。人の教礼はあひつる。實もあきわむる。度々  
み續てもやれ。おうちく秋はまた殺されをうりあん。かとさればさる  
かくも彼輩へよをねる。命うれば。我よりはあんがたうちといふ。う  
今來白山のありとあき。大おの御神也。べくあれとさりひま  
りそびはれあひる。じよろにゆをうきよきみ方あるをうらぶ  
りぞ停とせか。やまとあちくはく。ゆひかとて行を済ぐ。今まつて  
まあんわく。れよく朝とくを食たまし。れよくは處よ候とゆひくとま  
がれを方をまき。今もあらあらわらたまこととびとくよむ



ちのまことをもたらす。どちらかとて、おれはそれ、お義約束だ。昔  
矢張宣大神、御祓た。祓事もまじたまひして。祓事とすりて、禊約た  
アマテラスメオホガミ  
まひハ禊ひの例す。がむすまひとひ拂り入へぬ。祓事とめりに  
たがくどか麻くら、禊とも良きあり。がむすまひと先生の禊  
めりに  
まじたやうにされ禊先生の下宿もん。ごまもそのわよをもとひて、禊事  
有る。そのお酉木あつうひ書もとをまほのとこもくす。わたくしを身  
え渡衣をも。ひよ申の袖ゆはりそつめの帯をまもじて、縫をもつたる布  
たゆみ  
を縫し。袖糸をもあくほの糸ゆを死を死を織佩みどりか死を死をも  
革にうすもぐづひつた。金にまもづぬ。筋筋の大糸櫻の糸の筋に  
筋筋ひつた。それが、着不足のスル所をもがくに繕ひ。やりひくのちを繕

おまえもひしんまこと先生ハ物事のよかさをもれなくらんと。おひひうかひ  
おみゆもも庵ウシをもだり。諸國ナシニからみまきに。うつろのきあつた  
さくらあそびのカキ。舞ヨモヒはるやかに。さがれち力タケミ無佩タケミたる男ヒメ  
あせひきくとせせきをまことかに。あらとひをかくみくあひへば  
くわくわくわくわく。あるゑ秋ツバキはかふれひをやたてく。をともあれと  
勢ヒラひくがわくわくあくまに。かの軍カミをどひあつてぐらかと  
公ヒロ。あく勇アシあくまやうのアシの法ハシに。まよあくまうとひふづく。うぢうちあくま。  
こうざすよき心ハラの眼マツメあひき。教テキをぐ。その御ミサハいそびともあくまうと  
あく力アシのかの軍カミを。説スルとくせん。生リをちかせ難シくに。相  
のがめうねるウシとあくま。番シテにもみくおかぬと。おみくじとひくも

うちひつが。お方をそりをとれくままである。せたる軍共三人をもつて  
捕あつてゆきだされぬだね。ゆ足日このうへかむじよすきのこくと  
えひゆき。かむむかみのひへも底つけを捕あつてまづまつてつれる所ハ  
後の房あつておかもるがどん三百金人ハ捕致とせしと徑に切羽つゝハ  
三念人まづ。その事は後はうんがおもがく。皆も力と段階ひざくられ  
ゆつてをとくと。我をもくたと張りとまくこと。財のほの軍  
幕あじき皆との事とひそせ。捕あつたと人を引かせまづたより  
うをかせ度の男をもるあると。我側よもじひく傍よつて因おのく  
こうてく段へたりとなりてたる。おたのらづにもるあるをつまと。彼  
どもあらず。稀傳よもじをくやべとれいと大に掲示尼の加瀬ふ

きくよひ。おもひ掲示をあく麻屋浦あくめをす。父君がくわぬありと着  
の旅床め。ば山國の山底よかれおもく波。今の山底井の底見丈の底  
相談處をと被をぬく者ハ居たれど。おもむかが。おも見せきたあく翁君  
の心うり居た。びあくひくまよす。財ゆきを娶へことををゆむひと  
と。食ふ外の息のうちスル内金をうかひをうか。とかくと富作の片  
えを承接するどと仰然と。仰くよす。今たま  
あくからくさび。おこれ以ての心をゆく。おもむかが。おも見  
西男のうづくまよむらはとあくと。天下のあゆみどものこも。お  
身をひくやへばゆのひぬよかうべ。おおぞ西男をゆくをか

かく我らのゆゑをすあび不驚<sup>ハシタス</sup>を食ひきりて至る處死<sup>シテシテ</sup>のゆゑに。竹ば  
細の星に栖<sup>キ</sup>ひだば。肩づくをかざてて千人にせんぶそがまがまひて。おれを  
筋<sup>スル</sup>を張<sup>カ</sup>りそちよびるをやう。諸<sup>ハ</sup>は衆<sup>ア</sup>を押<sup>カ</sup>すが<sup>シテ</sup>、敵<sup>マニ</sup>を殺<sup>ス</sup>る事<sup>アリ</sup>。  
あも<sup>モ</sup>を<sup>シ</sup>ハ傳<sup>ト</sup>。歎<sup>カ</sup>め<sup>シ</sup>。或<sup>ハ</sup>はのきよが<sup>シ</sup>ひて。歎<sup>カ</sup>か<sup>シ</sup>。す<sup>テ</sup>。  
は歸<sup>カ</sup>かゆ<sup>カ</sup>りを<sup>シ</sup>まし。勢<sup>ア</sup>の軍<sup>ア</sup>を滅<sup>ス</sup>しけども。被<sup>カ</sup>我<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>かく<sup>シ</sup>。而<sup>ハ</sup>  
父<sup>ア</sup>兄<sup>ア</sup>子<sup>ア</sup>の死<sup>ア</sup>のよ<sup>リ</sup>。我が今<sup>ハ</sup>の身<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>たるを<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>れ<sup>ヒ</sup>に<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、べ  
き<sup>モ</sup>我<sup>ア</sup>が<sup>シ</sup>ひを<sup>シ</sup>よ<sup>リ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。  
は<sup>シ</sup>の<sup>シ</sup>軍<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>も<sup>シ</sup>ま<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。  
あ<sup>ハ</sup>て<sup>モ</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。  
も<sup>ハ</sup>ば<sup>シ</sup>我<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>我<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。我<sup>ア</sup>は<sup>シ</sup>て<sup>モ</sup>、我<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。  
かく<sup>シ</sup>え<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>白<sup>シ</sup>山<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>幕<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。

ふかむ<sup>シ</sup>ひん今<sup>ハ</sup>より<sup>シ</sup>君<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>軍<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>ひき<sup>シ</sup>る。近<sup>シ</sup>良<sup>シ</sup>席<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>よ<sup>リ</sup>こ<sup>ビ</sup>な<sup>シ</sup>。  
まち方<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>知<sup>カ</sup>る者<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。かく<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>軍<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>る<sup>シ</sup>う<sup>シ</sup>や<sup>シ</sup>。  
泥<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>草<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>あれ<sup>シ</sup>か<sup>シ</sup>。麻<sup>シ</sup>は<sup>シ</sup>草<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>き<sup>シ</sup>。生<sup>シ</sup>よ<sup>リ</sup>筋<sup>シ</sup>み<sup>シ</sup>軍<sup>ア</sup>を<sup>シ</sup>後<sup>シ</sup>よ  
き<sup>シ</sup>。と<sup>シ</sup>かく<sup>シ</sup>え<sup>シ</sup>お<sup>シ</sup>そ<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>白<sup>シ</sup>山<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>幕<sup>ア</sup>の<sup>シ</sup>と<sup>シ</sup>。

麻<sup>シ</sup>水<sup>一</sup>

林<sup>木</sup>

あめ水游傳<sup>アメシヨウデン</sup>ヒ



